



とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

じりつしえん
自立支援センター

おおいた

しょうがいしゃじりつしえんほう みなお もと おおいたけんしゅうかい
『障害者自立支援法の見直しを求める大分県集会』
 さんか
へ参加しました！

だい 13 号 はっこうねんがっぴ ねん がつ にち か
第 13 号 発行年月日:2007年 7月 17日(火)
 はっ こう もと とくていひ えいりかつどうほうじん
発行元: 特定非営利活動法人
 じりつしえん
自立支援センターおおいた
 へんしゅうたんどうしゃ ごたんだ のりゆき やすとみ ひでかず
編集担当者: 五反田 法行・安富 秀和

平成19年2月12日、大分市コンパルホールにおいて『障害者自立支援法の見直しを求める大分県集会』が、障がい者、家族、福祉関係者、議員の方々等、約300人を集め開催されました。

第一部の「矛盾だらけの自立支援法」-これが地域の実態です-では、支援法が施行されてからの現状として、当事者の立場から西岡富士美さん(ケアホーム「小さな木かげ」)は、「ケアホームが、在宅支援から外され個別のヘルパーが派遣されなくなった。ギリギリの生活を助けてもらうのに自己負担を強いられ情けなくなる。今の自立支援法では困るし歯痒いことが多い」という発言があり、また、家族の立場から倉原秀樹さん(フラワーキッズ)は、「自立支援法は生きることに苦しさを感ずせる法律。収入が少なくとも負担があり、軽減措置は手続きが大変で、しかも2年間の期限がある。子供が大人になった時にどうなるのだろうか」と不安という発言があり、その他の発言者からも様々な苦しい胸の内が明かされました。

第二部の「地域で自立するために」- 私たちの提言 - では、「自立支援法を見直そう」というテーマで、曾我淳史さん(きょうされん大分支部)より、「障害者自立支援法は抜本的な見直しが必要。昨年末から利用者の滞納が増えている。就労移行支援とか継続支援というが、一割負担が入ることで歪んで機能しない。働くことが難しく、収入が保障されない障がい者に『自己責任』を導入すると生きていけない」という厳しい発言があり、また、「自治体と市民の連携」というテーマで、内尾和弘さん(宇佐市福祉課障害福祉係)より、「自治体として当事者の『自己選択・自己決定』を大事にしてきたが、障害者自立支援法により制度が変わり、戸惑いや怒りを持った。これでは『あたりまえの暮らし』ができない。障がい者の選別や囲い込みも見られるが、様々な枠組みを超えたネットワークを形成し、地域づくりを進めたい」というお話がありました。

この後、会場より質疑応答を求めたところ、「この苦しみはいつまで続くんですか」というご質問があり、会場が一瞬静まり返りましたが、徳田弁護士より、「その間に答えることは難しい。ここにいる私たちの運動が進むかどうかにかかっていると思う」というお答えがあり、自立支援法の問題の深さを物語るようなやり取りだと感じました。

最後に、「障害者自立支援法の抜本的な見直しを求めるアピール文」が読み上げられ、これからも、介護保険との統合を含めた様々な問題が発生することが予想されますが、国や厚生労働省に対して継続して要望活動を行ってほしいということが強く確認され閉会しました。

記事担当 河野 龍児



第8期「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」

5月7日(月)～5月17日(木)の10日間の日程で、第8期「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」によりネパール・カトマンズから(ケー・シー・ディー・パック)さんが当センターへ研修に来られました。

研修の目的として、「ユニバーサルデザインについて学び、カトマンズのアクセスを改善する」、「自立生活(IL)運動の理論について学ぶ」、「障害者スポーツについて学ぶ」といったしっかりとした目的を持ち日本を訪れ、昨年9月に東京から研修がスタートし北海道、神戸、山口他、様々な地域を経て大分に来られました。

研修にあたり担当として不安はありました。語学は大丈夫なのか、通勤は大丈夫なのか、どういった研修内容を行えばいいのかなどいろいろ悩みましたが、実際にディー・パックさんにお会いしお話をしてみると、そういった悩みは全てなくなりました。語学は、昨年9月より3ヶ月間、東京で日本語の勉強を初めてされたそうですが、日常会話に全く問題はなく、本当にわずかな時間でここまで上手にという驚きもありましたが安心しました。

ディー・パックさんはとてもきさくな方で、日本に来られてからの事、母国ネパールのお話を沢山してくれました。お話の中でネパールのバリアフリー状況を教えていただき、「ネパールでは車椅子の方では生活が難しく、道は整備されていないため、移動するのにバスに乗ろうとしても車椅子では乗る事が出来ない。車椅子も皆が持っているわけではありません。私の車椅子はドイツの友人より頂き私はラッキーでした」と、お話されていました。ディー・パックさんは「ネパールでバリアフリー、ユニバーサルデザインを広めていき何年かかってもネパールを変えたい」と、よくおっしゃっていました。

ディー・パックさんの夕方からの日課といえば海を見る事で、「ネパールには海がないので海を見るととても楽しい」と、楠港や別大国道入口など毎日のように行っていた事が今でも印象に残っています。

研修日程が終了に近づきディー・パックさんは「別府はとても素晴らしい所、頑張ってまた別府に来ます。でもネパールに帰って半年程寝込むかもしれない」と、少し弱音を見せる部分もありました。本当に別府が好きになったようでとても寂しそうでした。そして、下表内容の研修が終了し、18日にディー・パックさんは東京に帰られました。

最後に今回の研修を通して、当センターにおいてとても貴重な10日間となりました。国の交通アクセス、ネパールのユニバーサルデザイン、バリアフリーの普及というディー・パックさんの夢に向かって熱心に研修に取り組んでいく姿は、私達センター職員も初心に帰るといふ気持ちを改めて思い起こさせてくれたのと同時に、障がい者が国を良くしていきたい気持ちは万国共通だと感じる事が出来ました。ディー・パックさんには、ネパールのバリアフリー化、ユニバーサルデザインの普及に尽力を注いで頂き、夢を1年でも早く叶えて頂く事を心より願っています。

日付	午前	午後	その他
05月07日(月)		オリエンテーション	
05月08日(火)	UDについての写真や資料を使った基礎的な概要	UD資料を通しての学習	歓迎会
05月09日(水)	UD資料を通しての学習	車椅子ツインバスケット体験	
05月10日(木)	改造車見学(リフト・自家用車)	UD資料を通しての学習	田ノ浦ビーチ見学
05月11日(金)	スポーツ用車椅子見学体験	UD資料を通しての学習	
05月12日(土)	グレートバリアフリー探険		
05月14日(月)	日本の養護学校について	UD資料を通しての学習	
05月15日(火)	UD資料を通しての学習	UD建築家に会う	車椅子テニス体験
05月16日(水)	パートナーシップ推進事業に関する写真や資料を使った基礎	太陽の家施設見学	送別会
05月17日(木)	研修についての感想文作成	研修に関するHP作成 オリエンテーション	



～ ケー・シー・ディー・パックさんからのメッセージ～

じりつ しえん センターおおいたの にしゅうかん けんしゅう! おおいたの けんしゅう いままでの けんしゅうの なかで いちばん はやく おわたつと おもう。にしゅうかん やまと うみを みながら ほんとに たくさん いい べんきょうに なりました。おおいたで わたしは おなじ みじかい じかんで いい なかまに なることが できました、みんなは やさしい、おもしろい そして ところが いいので できた おもう。さいしょの かんげいかい から さいごの そうげいかい まで たくさん たいせつな こと そして たくさん いい おもいで になりました。ひろさんと まことさん いっしゅうに うみの きれいな Beach は はじめて みました その Beach となりは だいたい しょうがいしゃは くるまいすでも みることも できますから うれしになりました。やすさと やすさんの おくさんと いっしゅうに くるまで いろいろ ばしゅうを みて Rope Way のつて たかいな やまも のぼりました。ほんとに すごく いいきもち でした。たつやさんと よるのとき いった Concert Hall、その Hall で ふるいうたを ききながら はなしましたことは わたしは いつでも わすれません。るうじさんと だだしと いっしゅうに でんしやのつて いろいろな ことにはなして いっしゅうに コービのむのときも すごくたのしかったです。よるの みんなは あつまって、いろいろな ことにはなしたり、おいしい たべもの たべたり あとで カラオケで うた を うたときは とても たのしかったです。じりつ しえん センターおおいたの かんがえかた、しことは やってるのかた ゆにばーさる でざいんについて いろいろな かつどを やってるのかたは にほんの いままで わたしは けんしゅうした センターの なかで とても いいと おもう。ゆにばーさる でざいんについて ここで べんきゅうした こと たとはよは 5月13日 じりつ しえん センターおおいたの みんなと かこせと、しんぶんの ひとたちと いっしゅうに やった ユニバーサル デザイン チェックの イベントは とても たいせつと おもう。その イベントは わたしの くにも したいです。この センターで にしゅうかん けんしゅう こと を わたしは いつでも わうれません。くに かえって しゃかい かえるの ために がんばりたいです。だれも つかいやすい せかい つくろの ために いっしゅうに がんばりましょう! また あいましょう!

バリアフリー探険



海門寺公園



鶴見ロープウェイ



きじたんとう やすとみひでかず
記事担当: 安富秀和

第2回大分県障がい者スポーツ大会

5月26日(土)に大分市の九州石油ドームで「第2回大分県障がい者スポーツ大会」が開催されました。この大会に代表を含め当スタッフ6名が参加しました。当日はすごく天候も良く、暑さを心配しつつ、会場へ向かいました。

会場へ着き、さっそくビーンバック投げの競技が始まりました、この競技には、私以外の5名が出場しましたが、その中で米倉さん・河野さん・若杉さんが金メダル、安富さんが銅メダルを獲得しました。次に60m走、この競技には私1人が出場し、4位ということで表彰台に上がることが出来ず、すごく悔しい思いをしました。

お昼からは、この悔しい思いと「表彰台に上がりたい」という気持ちを胸に、スラロームという競技に参加しました。

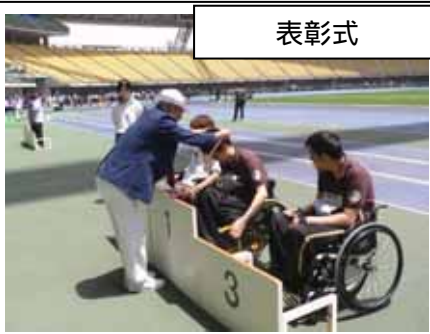
この競技は、赤い2本のポールを通る時が後進で、白い2本のポールを通る時が前進、白いポールが4本ある所では中一回転するというものでした。このことを知ったのは競技を行う15分前ぐらいで、前の出場者の動きを見ながらという、不安だらけでの出場となったのですが、無事競技を終え一安心。しかし一箇所一回転なくていいところで一回転してみたいですね。(笑)失格にはならなかったですけどね。この競技では、若杉さんが金メダル、私が銅メダルを獲得することが出来ました。今回スポーツ大会に参加してとても楽しむことができました。また来年、機会があれば出場してみようかなと思っています。

きじたんとう ごたんだのりゆき
記事担当: 五反田法行

ビーンバック投げ



表彰式



九石ドーム内



3月17日の14時から別府大学において福祉フォーラム・連続セミナーが行なわれました。

今回は、大分大学工学部福祉環境工学科建築コース助教授の鈴木義弘氏、株式会社三幸興産代表取締役の神田道子氏、そして当センター理事長の米倉仁がパネリストとして、「障がい者の住宅を考える」をテーマに意見交換を行いました。参加者は約30名程度で、まず、「福祉の居住水準の向上にむけて」を題目に鈴木氏が基調講演を行ない、欧米の状況報告も含めて発表されました。その中で「住まいに対する考え方の違いやグループホームのあり方について、日本と欧米では根本的な違いがある」と言う事も話されました。その後、神田氏、米倉の順に問題提起をしていただき、障がい者が地域で生活していくために必要不可欠な住宅問題について「公的な補助の浸透性」や「必要な絶対数の少なさ」、「官民が一体となって取り組むべき問題」と言った事が今後の課題として取り上げられました。「障害者自立支援法」では地域生活への移行を謳っていますが、いざ住宅を探すとなると、情報の少なさに悩む方も多いためと思われまます。そのような事から、今回は障がいのある方の住宅問題について考えていきました。官民一体となった県内の住宅情報ネットワーク作りに向け、これからも皆さんと協力していきたいと思っておりますので、皆さん宜しくお願い致します。

記事担当: 福田 浩範



シンポジウム



鈴木先生基調講演



全体の様子

『第16回全国自立生活センター協議会協議員総会、職員研修会』へ行ってきました！



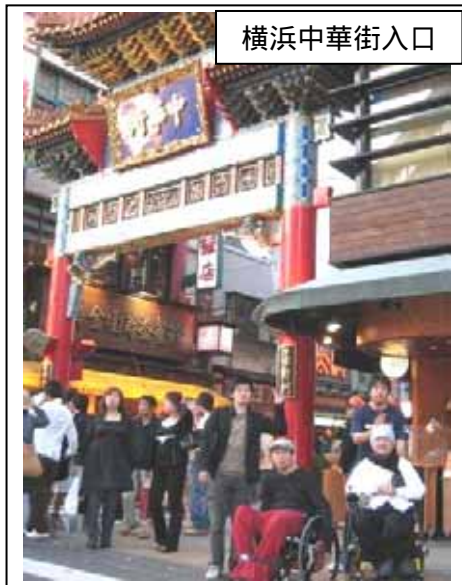
全体の様子

2007年5月19日(土)～21日(月)の日程で、横浜市西区みなとみらい パシフィコ横浜アネックスホールにて行われましたJIL総会、所長セミナーに行ってきました。

一日目の研修では、「制度のない地域での自立支援と工夫」というテーマで、サービス支給量を確保するための行政交渉についてのロールプレイが行われたり、「介助サービスの理念」の中では、沖縄の長位さんから「同姓介助のあり方」についての話がありました。

二日目の研修は、「利用者(当事者)研修の実践例」「いろいろな人と仕事をするために」という内容で、後者のテーマでは、精神障がいの方や、聴覚障がいの方等が、仕事をするにあたってこれまで経験してこられたこと等を話され、特に、精神障がい当事者のお話を聴く機会が少ないので、どういことを考え、経験してこられたのかを知る貴重な時間となりました。

三日目は、「協議員総会、常任委員会選挙、代表者会議」が行われ、協議員総会では、2006年度事業報告・決算、2007年度事業計画・予算の発表があり、出席者の満場一致で承認されました。次に、常任委員会選挙により、新しい常任委員が選出され、それぞれの挨拶があり、新体制での活動についての方向性が確認されました。



横浜中華街入口

記事担当 河野龍児

福祉ボランティア専門研修「自立生活プログラム体験講座」

大分県社会福祉協議会の助成を受け、2月3日、4日の2日間の日程でヒューマンネットワーク熊本山下鉦史さんを講師にお招きして、国際交流会館で講座を開きました。この研修は、大分県内の福祉方面のボランティア人口の増加と福祉ボランティアへの意識向上と啓発が大きな目的です。今回の講座内容は介助者向けのプログラムとなっており、参加者の皆さんも多くが健常者の方でしたが、障がいを持った方も同じように参加していただいて、良い交流の場になったのではと思います。

まず初日、ペアになってお互いを紹介しあう「タコ紹介」から始まり、講座中に呼ばれたいニックネームを決めたら講座のスタートです。お互いを理解し合い、近づきあうという「リレーション」と言われる方法やゲームで緊張をほぐし、本題へと入ってきました。障がいの自立生活運動の歴史や障がいを持たれた方が自立に向けてどのようにして行動してきたのか、また今後、どのような行動をしていけばいいのか、また介助者はどのように関わっていけばいいのかなどの説明が様々な場面を想定して行なわれました。利用者と介助者の人間関係は信頼関係の下に成り立っています。そういった信頼関係を築いていくためには、どのように接していけばいいのか。そして、そこから見えてくるニーズと支援のあり方も学んでいただきました。ピアカウンセリングと自立生活プログラムの関係性と違いの確認作業があった後、1日のまとめをして初日は終了しました。そして、2日目はもう一度「リレーション」の方法を通じて初日に学んだ近づきあう事、お互いが知り合う事の重要性を学びました。

その後、自立生活プログラムを通して提供されるものの確認と、プログラムを進める上での注意点等をプログラム例を通して確認していきました。例えば金銭管理や対人関係、行政との交渉などです。このような場合においての介助者の動き方も重要になってきます。当事者の主体性を妨げずにその場に適した支援を行なう事は簡単な事ではありません。普段からのコミュニケーションがとても大切なのです。

また、日常生活のあらゆる場面を想定して行なわれる「ロールプレイ」も実際に体験しました。この「ロールプレイ」では、実際に現実で起こるだろうと想像される出来事について当事者が目的の達成に向かって、参加者の力を借りて疑似体験によるシュミレーションをします。他の参加者はそれを見守り、ロールプレイ終了後に意見を出し合います。当事者はその意見を参考にしながらもう一度ロールプレイにチャレンジします。

こうやって何度もチャレンジする事でその場に適した対応が出来るようになり、自立への道が一つ開けるようになるのです。この「ロールプレイ」でも介助者、支援者の役割は重要です。どのような選択肢があるのか、どのような結果が予想されるのか、当事者自身が迷っている時に当事者が自分の力で選択し、決定していけるように必要最低限の援助をしていきます。過度の支援は、当事者自身の持っている力を伸ばす事ができなくなるからです。

最後に、実際にプログラムを組んでみながら、その中での工夫・注意点・ゴール設定などを体験してみました。いくつかのグループに分かれて、目標に向かってどのように計画を立て、その計画に沿ってどのように進めていくのか、途中の計画変更の時はどうやって修正していくのか、最終的な目標・ゴールはどのように設定するのか、出来るだけ具体的にプログラムを組んで、それをグループ毎に発表して、みんなで意見を出し合い、より良いプログラムを作っていくための工夫を学びました。プログラムの最後は、講師の山下さんをはじめ、参加していただいた皆さんに一言ずつ感想を言ってもらった後、「アプリケーション」をして研修は終了しました。「アプリケーション」とは、褒めあう事で、今回、体調の優れないまま講師を引き受けて頂いた山下さんへの感謝を皆さんに言葉にさせていただきました。

今回の参加者の方には、福祉ボランティアとして登録していただきました。今後、当センターのイベント等で活躍していただくかもしれません。日程的にもギリギリで、山下さんをはじめ皆さんに、ご迷惑をかけながらも無事に研修を終了する事ができました。皆さん本当にありがとうございました。

記事担当：福田 浩範

第17回フィールドトリップ 「ツインバスケットボール交流会」

7月1日(日)10:00~16:00の時間で、ツインバスケット交流会が別府重度障害者センター体育館で開催されました。今回は、参加者とスタッフを含めた26名の参加となりました。その中で、車椅子バスケットを見たことがある人・ない人、バスケット専用車に乗ったことがある人・ない人と様々な方に参加して頂きました。

当日は10:00に重度センター体育館に集合し、開会挨拶・当日の日程・ルール説明といった流れで進行して、その後各チーム・4チームに分かれ自己紹介をしてもらいました。更に各チームごとで作戦ミーティング等が行わ

れていました。予定時間より早かったのですが10:40からの試合開始となりました。

第1試合に対戦するチームの方たちは準備という事で、障がい当事者は日常車椅子からバスケット車へ乗り換えて、健常者の方は空いているバスケットに乗っていただき、準備ができました。試合を開始しました。

試合の様子としては、なかなか得点の入らない試合でした。しかし、試合を重ねることでだんだん慣れてきたのか、シュートが全然入っていなかったのが入るようになってきました。やっぱりシュートが入ると嬉しいもので、入るたびにみんなで大喜びだったような気がします。

今回「ツインバスケット交流会」を企画開催して、参加者の皆さんから、楽しかったという声をたくさん聞くことが出来、とても良かったと感じました。今後もまた開催したいと考えていますので、その際は是非ご参加下さい。

記事担当：五反田法行



フィールドトリップ『お花見&競輪』

平成18年4月7日(土)に、自立生活プログラムの一環としてフィールドトリップ『お花見&競輪』が行われました。今回のフィールドトリップでは、上人ヶ浜公園に集合し、サクラの花を散策しながら別府競輪へ行き、また競輪を体験したことの無い方もベテランの方も一緒に競輪を楽しもうという内容で行われました。

競輪場へ着き、まず始めにびっくりしたのが競輪場施設内のキレイさでした。施設内は段差がなく、多目的トイレ等も設置されており、障害を持たれている方でも安心できる造りになっていますし、やはりイメージ的に競輪場の中に実際に入るまでは少なからず印象は良くなかったのですが、それを覆された気がしました。続いて、競輪を知らない方がいるということもあり、別府競輪場のスタッフの方に競輪についての紹介・競輪の遊び方など細かなところまで教えていただき、参加した皆さんも真剣な表情で話しに聞き入っていたようです。その後、競輪場の一番奥にある広場で昼食となりました。広場近くには飲食店が5店舗あり、各自、思い思いのお店で昼食をとっていましたが、どの店舗も低料金で味も良く、満足していたようです。

続いて、競輪場スタッフさんからのレクチャーも終わり、実際に競輪を楽しんだ方も沢山いたようです。車券の購入額が100円から買えるということもあり、始めのうちは緊張しながらの体験だったようですが、実際、競輪を楽しまれた方の中には100円が1000円(想像にお任せします...)になった人、私のように一度も当たらなかった人と命運を分けた形となりましたが、楽しく一日を過ごせたのではないかと思います。

記事担当：若杉竜也



「五十嵐えりさんを偲ぶ会」

平成18年6月16日(土)に、同年4月21日に火災により亡くなられた五十嵐えりさんを偲ぶ会を別府市南荘園町にあります国立別府重度障害者センター体育館にて行いました。

当日、会場には知人、友人はもとより本人とは面識のない方もこれ、約150名という多くの方々にお越しいただきました。

五十嵐えりさんは生前「自立を目指す方々のサポートがしたい」と2年もの間、ピア・カウンセラーとして多くの障がいのある方の心のケアや相談業務などに携わり、またユニバーサルデザインやバリアフリーに関する様々なまちづくり活動や障害者自立支援法に関する要望活動、障がい者の人権擁護活動等、自分の目指すものに真っ直ぐに取り組んでおられました。

そういった背景も踏まえ、会場には彼女が別府に残した足跡を知っていたかどうかとパネル写真の展示、メッセージビデオの放映を行いました。会場に展示している写真のほとんどは、彼女を語る際の代名詞ともいえる、笑顔で微笑んでいる写真が並び、メッセージビデオの内容では、まずはじめに国立別府重度障害者センターに入所されている方、別府で出会った友人の方々等約50名から五十嵐さん本人との思い出話、贈る言葉などが話されました。続いて、別府市北小学校の生徒さんと別府市温泉施設「テルマス」で一緒に交流した際の映像、NHK福祉ネットワークで放映された映像の中では自立生活を始めて、まだ3ヶ月という短い期間での撮影でしたが、彼女自身が、勉強をしながらの一人暮らしをしながらも仕事、プライベートでも本当に一所懸命で、時に無理をしている姿が痛々しく見えたりもしましたが、この一途で真っ直ぐな生き方は、私たちに多大なる影響を与え続けると感じました。会場へこられた方々もパネル、スクリーンの前で足を止められ思い思いに五十嵐さんとの思い出を振り返られ何かを感じられたのではないかと思います。

今後、NPO法人自立支援センターおおいたスタッフ及び福祉フォーラムin別府速見実行委員会一同、決して、えりさんが残した足跡とあの笑顔をおぼろげに忘れることはないでしょう。そして、これからもえりさんの遺志を引き継ぎ、障がい者の自立支援ならびに福祉の向上、ユニバーサルデザインのまちづくりに邁進していく所存です。私達は、彼女が目指した真の意味での障がい者の自立生活を実現するために、これからも心を一つにして頑張っていく予定です。

最後に偲ぶ会に参加くださいました方々へは諸事行き届かぬことばかりで、失礼も多々あったかとは存じますが、何卒ご寛容のほど、これからも変らぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

記事担当：若杉竜也

ビデオコーナー



パネルコーナー



パネルコーナー



ビデオコーナー



五十嵐えりさん



お知らせ

2007年7月

12月の予定

これからも自立支援センターおおいたや自立生活センターおおいたでは、楽しい催し物をぞくぞくと行っていきますので、ご家族・ご友人をお誘いの上、皆さんふるってご参加下さい。詳細は、1ヶ月前にチラシや市報などによりお知らせ致します。

(催し物や日程は都合により変更の場合がございますので予めご了承下さい。)

日 程	
平成19年度ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップ	(大分空港7月22日(日))
	白田市10月実施予定
	佐伯市12月実施予定
平成19年度泉都別府ツーリズム支援事業	7月より事業開始
平成19年度全国都市再生モデル調査	8月より事業開始
ピア・カウンセリング公開講座	8月25日(土)
フィールドトリップ 『夜の街歩き交流会』	10月27日(土)
フィールドトリップ 『ポーリング交流会』	11月17日(土)
フィールドトリップ 『クリスマスケーキ作り』	12月15日(土)

< 編集後記 >

暑中お見舞い申し上げます。毎日暑い日が続きますが、体調など崩されてはいないでしょうか？私は毎日の暑さにダウンしかけています。我が家のエアコンは毎晩休む事なく、フル稼働しています。エアコンを少し我慢しようかなと思うのですが、気が付けばリモコンへ手が伸びています。(笑)

ご挨拶が遅れました、4月からセンターでスタッフとして働いている首藤と申します。まだまだ慣れない事ばかりですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。さて、新聞13号発行までの間にセンターでは『お花見競輪』やネパールからの研修生ディーパックさんとの二週間の研修等色々な出会いがありました。新たな気持ちでスタッフ一同、これからもより良いサービスを笑顔で明るく提供出来る様に頑張っていきますので、みなさんよろしくお願い致します。

編集後記担当: 首藤 健太

主なサービスは次の通りです。

- 訪問介助サービス
- ピア・カウンセリング
- 自立生活プログラム
- 福祉各種無料相談
- 自立生活・バリアフリーセミナー
- バリアフリーコンサルタント

(ユニバーサルデザイン)

特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた
〒874-0942
大分県別府市千代町13-14 エバ-サマンション 2F
TEL: 0977-27-5508
FAX: 0977-24-4924
E-mail: 333@jp114.com
URL: <http://www.jp999.com/333/>

私達は利用者主体の介助サービスを提供しています

-ご報告-

4月21日の火災により当センター - スタッフの五十嵐えりさんが逝去されました。私達スタッフにとって彼女は大きな存在であり本当の仲間でした。スタッフ一同悲しみを乗り越え、これからもえりさんの遺志を引き継ぎ、障がい者の自立支援ならびに福祉の向上、ユニバーサルデザインのまちづくりに頑張っていきますので、よろしくお願い致します。